

研究概要報告書【音楽振興部門】

(1 / 3)

研究題目	《貝殻節》継承のためのデータベース化と教材開発	報告書作成者	鈴木 慎一郎
研究従事者	鈴木 慎一郎		
研究目的	<p>本研究の目的は、鳥取県の代表的な民謡である《貝殻節》のデータベース化と教材開発を通して、地域と学校教育との連携を図りながら、《貝殻節》の継承を図ることである。</p> <p>これまでに研究従事者は、2013(平成 25)年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」の助成を受け、《貝殻節》の採譜者である三上留吉のライフヒストリーと《貝殻節》が浜村温泉の宣伝歌であることを明らかにし、『音楽表現学』Vol.12(2014)において発表した。また、2013(平成 25)～2015(平成 27)年度文部科学省特別経費事業を受け、学生との共同研究で「貝がら節祭り」等に関する調査を行った。その成果の一部は、『地域教育学研究』6巻1号(2014)、7巻1号(2015)等において発表した。さらに 2014(平成 26)年度鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センターの助成を受け、《貝殻節》の授業実践の現状と課題を『地域学論集』第 12 巻第1号(2015)において発表した。</p> <p>上記のこれまでの研究から、《貝殻節》は音楽の教科書に掲載されているものの、鳥取市内の小学校において実践されたのは、59%と定着しているとは言い難い。特に指導法に悩んでいる教師が多いことが明らかとなった。本研究によって、これらの問題を解消したい。次期、学習指導要領改訂においても、郷土の伝統音楽は重視されている。</p>		

<p>研究内容</p>	<p>①《貝殻節》の音源、振付等の収集と分析を行い、データベース化を図る。デジタル保存とし、DVDを作成する。</p> <p>1933(昭和8)年にコロムビアから発売された《新民謡 貝殻節》(三上留吉採曲、松本穰葉子改詞)や「浜村温泉貝がら節保存会」によって制作された《正調 貝殻節》、1987(昭和 62)年、「貝がら節祭り」のために鈴木成弘によって編曲、梅津洋子によって振付された《新曲 貝がら節》については、これまでに収集した(『地域教育学研究』8巻1号、2016)。本研究では、上記の《正調 貝殻節》の唄い手の竹中義範氏に聞き取り調査を実施し、「浜村温泉貝がら節保存会」の発足した経緯や《正調 貝殻節》の歌唱のコツ、竹中氏のライフストーリー等について明らかにする。さらに、別の唄い手によって唄われた《貝殻節》の音源の発掘に努め、データベース化を図る。</p> <p>②教材開発を行うにあたり、これまで発行された音楽教科書における《貝殻節》の掲載の状況を分析する。</p> <p>戦後以降の小学校、中学校、高等学校の教科書における《貝殻節》の掲載の状況を明らかにするために、東京書籍株式会社附設教科書図書館東書文庫や東京学芸大学附属図書館等において閲覧、収集を行う。その際、広島高等師範学校附属小学校音楽研究部編『日本童謡民謡曲集』(1933)と参照しながら、戦前から戦後にかけての連続性の視点からも分析する。</p> <p>③音楽デジタル教科書の分析を行い、日本の民謡の掲載方法や特徴について明らかにする。</p> <p>2015(平成 27)年に教育芸術社と教育出版の全2社から発行された小学校音楽デジタル教科書における日本の民謡の掲載方法や特徴について分析を行う。特に紙の教科書には掲載されていない「音声」や「動画」に着目し、教材としての有効性を検証する。</p> <p>④音楽デジタル教科書とDVDを活用した日本の民謡の学習プランを構想する。</p> <p>鳥取大学附属小学校で使用されている、教育芸術社では、第4学年に「日本の音楽に親しもう」という題材で、日本の民謡の学習が展開される。富山県民謡の《こきりこ》が表現教材として掲載され、《貝殻節》は「郷土の民謡」として紹介される。本研究では、日本の民謡に対する造詣が浅い教員であっても実践できる、音楽デジタル教科書とDVDを活用した日本の民謡の学習プランを構想し、普及を図る。</p>
-------------	---

研究概要報告書【音楽振興部門】

(3 / 3)

<p>研究のポイント</p>	<p>①《貝殻節》の音源、振付等の収集と分析を行い、DVDやCDを作成し、データベース化を行い、継承を図る。</p> <p>②これまで発行された音楽教科書における《貝殻節》の掲載の状況を整理し、どのような教材化がなされていたかについて明らかにできる。</p> <p>③2015(平成 27)年に発行された小学校音楽デジタル教科書の全2社の日本の民謡の掲載方法や特徴について分析する。特に紙の教科書には掲載されていない、「音声」や「動画」に着目し、教材としての有効性について検証する。</p> <p>④日本の民謡に対する造詣が浅い教員であっても実践できる、音楽デジタル教科書とDVDを活用した日本の民謡の学習プランを構想し、普及を図る。</p>
<p>研究結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・《貝殻節》の唄い手である、竹中義範氏への聞き取り調査を 2016(平成 28)年8月4日に、浜村の映画会社である「ことり舎」の協力も得て実施した。その際には、唄の収録も行い、DVDを作成し、デジタル保存を図った。その他、「貝がら節祭り」(8月5日・6日)の際に《正調 貝殻節》と《新曲 貝がら節》の映像資料を収集した。 ・佐藤松弘美氏の協力を得て、ビクターから 1955(昭和 30)年に発売された鈴木正夫氏が唄う《貝殻節》のSPレコードを発掘することができ、CDを作成し、デジタル保存を図った。 ・《貝殻節》の掲載に関して、1965(昭和 40)年、教育出版発行の小学校第5学年の音楽教科書には曲名のみ、1966(昭和 41)年、教育芸術社発行の高等学校「音楽 I」の教科書には、川崎祥悦編曲で歌唱の主旋律の他、楽器と打楽器の譜も掲載されていたことを確認した。 ・全国的な民謡である《こきりこ》と郷土の民謡である《貝殻節》を取り上げた、音楽デジタル教科書とDVDを活用した、小学校における日本の民謡の学習プランを構想した。
<p>今後の課題</p>	<p>おかげさまで、今年度から科研費の基盤研究(C)「小中一貫を図った音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発」が採択された(平成 29～31 年度)。今後は、①小中一貫を図った音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡のカリキュラム構築、②教科書には掲載されていない「郷土に伝わる民謡」の収集、③音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発、④「郷土に伝わる民謡」を題材としたDVD教材の開発、⑤音楽デジタル教科書ならびにDVD教材を活用した教員養成のプログラム等に取り組んでいく計画である。</p>

